

播磨 まちかどニュース

With いなみ野学園



兵庫県いなみ野学園では、大学院生などの受講生が自主制作として、地元ケーブルテレビ局「BAN-BANテレビ」と協働し、テレビ番組「播磨まちかどニュース With いなみ野学園」を制作しています。学園内外の魅力的な活動を映像で紹介する15分の番組です。瓦版では、これまでの配信動画の内容を紹介しています。

★★最新の配信動画★★

現在、いなみ野学園ホームページに掲載している動画をご紹介します。

播磨まちかどニュース with いなみ野学園 100 生き生きライフフェア ～輝くシニアライフ～

◆配信日：令和7年6月1日◆



今回は、3月に行われました「生き生きライフフェア 2025」のイベントの様子を紹介します。



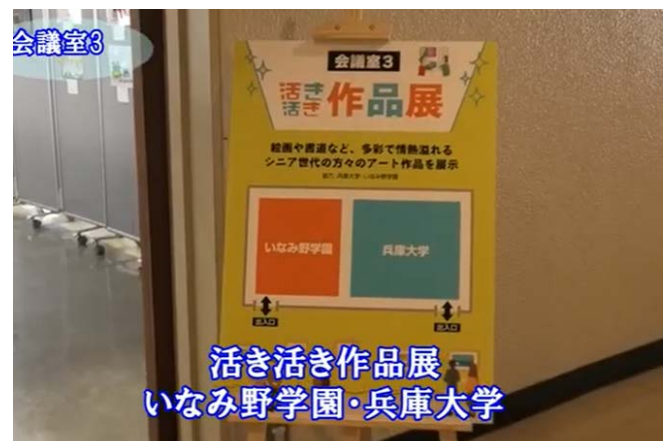
SHOWAグループ 市民会館 (加古川市民会館)

令和7年3月23日(日)、SHOWAグループ市民会館(加古川市)を会場に、大ホール、中ホール、小ホール、会議室と全ての部屋を使って行われました。その催しが始まる早朝、作品搬入や作品展示などを関係者のみなさんで準備にかかりました。

開会に合わせて諸準備すべてが完了。そしてオープニングのスタートです。今回の「生き生きライフフェア」は、私たちシニア世代に向けてのイベントで、「セカンドライフを応援します」とのこと。老後のくらしのヒントとなる情報を提供してくれる催しでした。

午前中は、大ホールで吉本興行主催の「落語

会」があり、午後から各ホールでの催しがありました。



生き生き作品展
いなみ野学園・兵庫大学



絵画 (兵庫大学)



フリーズドライフラワー (兵庫大学)



写真 (いなみ野学園)



書道 (いなみ野学園)

小ホールでは、「輝く！生き生きライフ作品展」と銘打って、兵庫大学といなみ野学園の高

高齢者のみなさんによる絵画や書、また、プリザーブドフラワー、写真などの力作が展示されていました。



中ホールでは、「企業ブース」のワークショップがありました。住宅、金融、保険、健康などの生活に密着した業種の各企業がブースを出展、来場者に情報提供や質問などに応えていました。その中で気になったブースに但陽信用金庫のボランティア活動の取り組みが。担当者から「阪神淡路大震災がきっかけでボランティア活動を始めたこと。当時は支援物資の仕分け作業や見守りサービスなどに関わったこと。その後は地域イベントとして姫路マラソンや加古川ツーデーマーチなどの支援、その他、移送サービスなどにも取り組んでいる」との説明を受けました。



もう一つ気になったブースに、兵庫大学の「ワイン講習会」が。ワインのソムリエによる講習会で、宮本隆太先生（日本ソムリエ協会執行役員）の説明を聴きながら参加しました。先生が言われるには、「ワインで一番大切なことはワイングラスです」と。いいグラスは最大限ワインの香りを引き出してくれるそうです。「是非、

ワイングラスにお金をかけてください」とも話されました。実際にワインを試飲しながらのイベントだったので、車で来ていた方は残念ながら試飲が出来ず、ちょっと悔しい思いのようでした。宮本先生はワインの栓の開け方についても説明されました。コルク栓ではないキャップ式の口栓の開け方は、キャップを回すのではなく、ピンの首を回すようにと。「へー、そうだったのか」と初めて知ることでした。「もっと知りたい」と興味のある方は、是非、兵庫大学の講座に参加されては如何でしょうか？

早朝から、夕方まで丸一日のイベント。大勢の参加者で大いに盛り上がるものとなりました。今回が「第1回目」。私たち高齢者に関わる色々な情報を得られる企画でしたから、是非、次年度もと願います。地域を支える企業や学校がシニアに向けて、テーマ「輝くシニア」とした今回の「生き生きライフフェア」は、高齢者の我々にとって、参加してよかったと言えるものとなったことでしょう。

「好きなことにトライして 好きなことを楽しもう それが元気の秘訣」 また来年も、この企画を楽しみにしたいと思います。その時は、改めて会場でお会いしましょう。



最後に、「季節のたより」紹介で、いなみ野学園大学院1年生の野口邦弘さんのヤマサ蒲鉾の「シバザクラ」と、いなみ野学園研究生の吉川千代子さんの「フジの花」、とてもキレイに咲き誇っていました。



(ナレーション 大前 小夜子)

ラジオカレッジへの誘い ～学び続ける人は輝いている～

◆配信日：令和7年6月16日◆



今回は、「ひょうごラジオカレッジ」について、紹介しましょう。自宅にしながらラジオを通して講座が聴ける、それが「ラジオカレッジ」です。1977（S52）年につくられて、50年近く続いてきています。詳しくは、「ラジオカレッジ」担当職員の吉本純子参与と、宮本智子事務職員に説明をしてもらいました。



始めに、吉本参与からラジオカレッジの説明です。「毎週土曜日の朝7時から7時半までの30分間、ラジオを聴きながら感想を書いて送っていただきます。講座内容もバラエティーに富み、いろんな話題を聴くことができます。若い人は30代の方から最高齢は百歳を超える方まで受講をされています」とのことでした。

続いて吉本参与は、「ラジオカレッジ」の魅力を「3つ」にまとめて話されました。

魅力その1、『手軽に始められること』

ラジオ以外でもパソコンやスマホからでも聴くことが出来る。過去の放送を聞きたければ「ポッドキャスト」から聴くことが可能。インターネットでラジコのアプリでもOK。

事務局から毎月テキストを配布し、そのテキストを見ながら学習を続ける。52回の内の課題番組18回を聴いて感想文を書いて送

学習方法は？

◆毎週土曜日、朝7時から30分間、ラジオ関西で放送する講座をお聴きください。

（パソコン、スマホでも受講できます）

【学習内容：健康・医療、文化・歴史、政治・経済、自然科学
地域づくり、時事、生きがいづくり等】

◆年間52回の放送のうち、18回分の「課題番組」について、はがきやメールで感想文を提出してください。

・「往復課題番組（年間9回）」は、往復はがきで感想文を提出していただくと、ラジオカレッジ講師から個別に返信指導があります。

・規定の課題を提出した方には修了証書を授与します。

◆講座に先立ちテキストを、毎月郵送します。

・優秀な感想文はテキストに掲載されます

・俳句、短歌、川柳の投稿も募集

◆スクーリング（講師との対面授業）

・番組に出演した講師などから、直接、講義を受けることができます。

・学生による発表や交流の機会もあります。

・中央スクーリングは、年2回、加古川市のいなみ野学園で開催

・地方スクーリングは、県内各地区で開催

◆文芸祭、研修旅行、春のつどい等の行事にも参加できます。また、ラジオ放送で発表の機会もあります。

※本カレッジは、学校教育法に基づく大学等ではありません。

る。その後、本科生には講師から指導返信がある。ただ、書きづらい時は数行でも可、書ける範囲でOK。また、生涯聴講生には100歳を超えての方がなんと6名もおられるとのこと。以上の説明がありました。

宮本事務職員からは、在籍30年、35年という方もおられること。9年ぶりにラジオカレッジに戻ってきた。以前はハガキのみの繋がりがだったが、その方が現在も続けられていると知り、教え、励まされ、頭が下がる思いと話されました。

魅力その2、『参加行事などで交流できること』

春・秋に中央スクーリングが開催され、直接、講師から講義が聴けること。また、聴講



生同士の交流の場となっていること。その他にも、「文芸祭」では、俳句・短歌・川柳のそれぞれの担当の先生からの指導を受け、仲間同士での話し合いもある。更には、県下4地域で行われる「地方スクーリング」でも先生からの話を直接聴くことが出来る。併せて日帰り研修旅行もあり、去年は淡路へバス2台で行ったこと。などの説明がありました。

5月の「文芸祭」について、俳句・短歌・川柳の最優秀作品の紹介もありました。

俳句では、「一村の 眠るみずうみ 花筏」

(明石市 上山 松子さん)

短歌では、「ビー玉を 置けばコロコロ走り

出す ^{ない}地震三十年 この家に住む」(神戸市

須磨区 菊森 秀俊さん)

川柳では、兼題「好」から、「銀河から 君の星ひとつ ポケットに」(神崎郡市川町 木村 八洲子さん) 流石に素晴らしい作品ですね。

魅力その3、『友の会で絆づくり』

県下には22の「友の会」があり、会報誌を発行したり、研修会を開催したり、ボランティア活動をされているところも。新しい人(本科生)には、それぞれの地域のみなさんとの繋がりが出来、学習の進め方や書き方などを教えてもらったり出来ること。研修旅行もあるなど、「友の会への参加も是非に」と説明されました。

以上、これらを聴いてラジオカレッジを始めてみたいと思われた方は、いつからでも加入はOKです。

「学び続ける人は輝いている」がキャッチフレーズで、正に受講生のみなさんは、そのように輝いています。ここで1首、「100を超え 学び続けるその意欲 アッパレと言う他になし」。人生100年時代、私たちもこうした先輩たちに見習って、「学び続ける」ことを実践しなければと思います。みなさん、一緒に「ひょうごラジオカレッジ」を聴きながら、聴講生として共に学びませんか。



(ナレーション 吉川 千代子)

【いなみ野学園 動画配信ホームページ】

https://www.hyogo-ikigai.or.jp/ikigai/video/video_inamino_summary.html

≪編集・発行≫いなみ野学園 ビデオ制作委員会 (いなみ野学園大学院講座・研究生)

☎ 079-424-3380

